

6. 広報活動

2012年度に引き続き、多数の見学や取材に対応した。また広告代理店との連携によるPR活動や施設公開でのSACLAの紹介を通して、SACLAの広報・普及活動につとめた。

1. 広告代理店との連携

産業界を始め国民に広くSACLAを周知する広報事業を展開するため、PR会社との連携業務を実施した。成果物の例として、PRの企画・実施、シンボル開発（ピコネコ・播磨サクラ）、動画作成、雑誌タイアップ、Webサイトの構築等が挙げられ、テレビ番組にも取り上げられた。8個のPRコンテンツやメディア配信、タイアップ等により、593媒体・約5.8億円の広告換算効果を生んだ。

2. イベント

施設側として広報イベントを主催するとともに、学生や一般向けの展示会やイベントに積極的に参加し、SACLAを紹介した。

2-1 施設公開

2013年4月27日に第21回SPRING-8施設公開が開催され、「SACLA～一瞬を切り出す光～」と題して、実験研究棟の実験ホール、光源棟のアンジュレータギャラリーを中心に、SACLAの施設と装置を展示やパネル等で紹介した。施設公開全体は4,518名の来場があり、うち4,024名がSACLAを見学した。

3. 報道発表

2013年度はSACLAに関する12件の報道発表を行った（表1）。また、テレビ番組や新聞、WEBコンテンツのための取材が5件あった。

4. 見学対応

2012年度から引き続き、政府関係、産業界、海外研究機関等における要人、また学校教育の一環としての生徒・学生の見学をはじめ、幅広い層の見学希望があり、多くの見学者を受け入れた。

放射光科学研究推進室

表1 2013年度の報道発表一覧

発表日	タイトル	発表機関
2013年 4月30日	X線自由電子レーザー(XFEL)による重原子の特徴的な振舞いを検出 －XFELイメージングに不可欠な原子データを提供－	東北大学、京都大学、広島大学 理化学研究所、高輝度光科学研究センター
2013年 7月23日	X線を2回当てて「中空原子」の生成に世界で初めて成功 －量子だるま落としで2段抜き－	理化学研究所、分子科学研究所 高輝度光科学研究センター
2013年 8月13日	電子ビームをオーダーメイドで加速 －XFELマルチビームライン運転に向けた新技術－	理化学研究所 高輝度光科学研究センター
2013年 9月24日	X線自由電子レーザーパルスの特性を生かした高効率X線吸収分光法の開発 －超高速の化学反応を追跡するフェムト秒時間分解でのX線吸収分光が可能－	理化学研究所、高輝度光科学研究センター 京都大学、東京農工大学
2013年 10月3日	X線自由電子レーザーを用いて非結晶粒子の構造を高効率で解析する装置の実用化 －SACLAの効率的利用を目指して－	慶応義塾大学、理化学研究所、大阪大学 東京理科大学、高輝度光科学研究センター ㈱神津精機
2013年 11月26日	X線自由電子レーザーを用いて金属ナノ粒子の粒度分布と内部組織を複合的に分析 －世界最高クラスの効率・精度分析によりSACLAの産業利用を開拓－	大阪大学、慶応義塾大学 理化学研究所、信州大学
2013年 12月2日	2つのX線波長で同時レーザー発振に成功 －新しい実験手法を可能にする新光源－	理化学研究所 高輝度光科学研究センター
2013年 12月26日	X線レーザーで生きた細胞をナノレベルで観察することに成功 －生きた細胞を、ナノメートルの分解能で定量的に観察できる優れた手法を世界で初めて確立－	北海道大学、理化学研究所 高輝度光科学研究センター、東京薬科大学 共和化工株式会社環境微生物学研究所

発表日	タイトル	発表機関
2014年 1月10日	世界で初めて、X線自由電子レーザーを用いたフェムト秒領域でのX線直接吸収分光測定に成功 －極短時間に起こる化学反応の追跡手法をSACLAで実証－	東京農工大学、京都大学 理化学研究所、高輝度光科学研究センター
2014年 2月13日	X線の2光子吸収の観測に成功 －数百zept秒の間にほぼ同時に原子を2度打ち－	理化学研究所、分子科学研究所、大阪大学 東京大学、高輝度光科学研究センター
2014年 3月6日	X線自由電子レーザーを用いたコヒーレントX線回折イメージング実験データをその場で迅速に処理するソフトウェアの実用化 －SACLAの効率的な利用を目指して－	慶応義塾大学 理化学研究所
2014年 3月11日	SACLAの「目」である高性能X線イメージング検出器を開発 －高い放射線耐性・電場が崩れない電荷収集・高速動作・大面積の高仕様を実現－	理化学研究所、高輝度光科学研究センター 分子科学研究所